

人権と福祉の まちづくり運動を柱に

湯浅研究集会

「人権と福祉のまちづくり」という集会テーマをきっかけ、部落解放第42回湯浅研究集会を8月18日、湯浅町総合センターでひらかれ、行政、同盟員はじめ346人が参加した。

8月18日には全体集會がおこなわれ、20日から第1分科会「部落差別と障がい者差別解消法について」、21日の第2分科会「人権と福祉のまちづくり」、28日に第3分科会「狭山事件と冤罪について」と3分科会にわかれ、さまざまな議論が交わされた。

狭山事件と えん罪について リレートーク

「人権と地域福祉運動の課題と展望」と題して、谷元昭信・大阪市立大学人権問題研究センターから講演があった。地域福祉計画の策定・具体化のとりくみを契機に、福祉分野のみならず人間生活のあらゆる分野から「新たな地域共同体の再生・創出」のとりくみとして「人権のまちづくり」運動を構築することが大切であり①「つながり」の理論による新たなコミュニケーションの創出、②複合差別の

視点からの差別の社会的機能の克服、③「自助・共助・公助」の三位一体の関係づくり、④「人権のまちづくり」運動を推進・支援する法制度の確立、⑤地域からの日本社会変革への推進力をすすめることが提案された。

人権の核心は 「尊厳と生存」

第3分科会「狭山事件と

えん罪事件について」には62人が参加し学習した。山根木康智・湯浅町共闘会議と竹井一人・湯浅支部が座長を務め、上山正宏・同支部書記長が、近年、数々のえん罪事件が明らかとなってきたなか、狭山事件だけが、マスコミにも取り上げられる機会が少なく裁判もすすまないことについて、部落差別を悪用したえん罪事件であることや日本の司法制度の問題、狭山事件を今後どのようにとりくむのかについて問題提起した。

新体制でスタート

和歌山市ブロック総会

2014年度和歌山市ブロック総会を8月19日、同和企業センターでおこなう、和市執行委員と各支部長、支部三役が出席し、瀧口秀光・議長のあいさつで始まった。10日に開票された市長選で県連推せん候補の尾花正啓さんがかつて、25日から新市長としての公務がはじまり、市は人

口減少やまちづくりなどさまざまな課題がある。差別をなくすまちをつくるためがんばるので、みなさまのご意見をいただきたいとあいさつをして退席した。藤本哲史・事務局長から経過が報告され、次に決算予算を辻川哲史・会計監査から報告された。今年役員改選の年にあたり、全員

留任となった。次に対市長交渉、対市交渉についての担当と企業連総会の和市ブロック担当の各支部の任務分担、理事ブロック推せんについて協議され、ブロック推薦は現行となった。今年11月に知事選挙があり、選挙体制と選挙対策委員が報告された。最後に、昨年3月から導入された本人通知制度について各支部での強力なとりくみを求め、総会を終えた。



第3分科会のリレートークした講師



熱心に聞き入る参加者

人の世に熱あれ 人間に 放第42回湯浅



全体集會であいさつする谷元昭信さん

頑健

この9月に昭和という時代を象徴する人物の一人「山口淑子」が波乱の94年の生涯を終えた。彼女は、炭鉱の町、中国・撫順で生まれ、瀋陽(しんやう)で育った。13歳の時、地元の放送局にスカウトされ「李香蘭」として歌手デビューし、瞬く間に女優・歌手として大スターになっていった。そして、彼女は「夜来香」「蘇州夜曲」をはじめ数多くの代表作を残している。なかでも『夜来香』は有名で、かのテレサテンも歌っていた▼山口は、終戦を上海で迎えるが、その後「漢奸(売国奴)」として拘束され軍事裁判にかけられた。「中国人でありながら日本の侵略の手先になっていた」というのが理由で、中国では彼女を中国人・李香蘭と信じられており、本人も否定していなかった。この李香蘭という名は、父の中国人の友人が、自分の子どものように可愛がりつけた名である。さて、そんな彼女の窮地を救ったのがロシア人の友人である▼山口は、日本が中国侵略の拠点とした地域で生まれ育った。13歳の少女には、自分がおかれていた状況や国の政治的な意図とは無縁であったに違いない。無論、侵略のプロパガンダ(思想的宣伝・扇動)の役割を果たしていたことも。彼女は、戦後、2度目の結婚をへて「李香蘭」から「山口淑子」になった▼後に、自民党参議院議員になった経歴も含め、彼女への評価はさまざまであるが、間違いなく国家の意図(戦争)が「李香蘭」を生んだのであり、ひとりの女性の運命を翻弄したのだ。この頑健を書いているとき、男装の麗人「川島芳子」も気になりだした。(S・I)